

じょうけい



かんしょう 喚鐘

寺院の堂内や軒下につり、片手に木槌をもって鐘身の中ほどにある撞座(つきざ)をつき音を出します。喚鐘の(喚)が示すように、僧侶らを集合させたり、勤行や法会の開始などの合図のために打ち鳴らします。

左の写真が、浄慶寺の喚鐘です。法会の開始に際して、打ち鳴らされています。鐘の音色とその調子は、快い響きでこれから始まる法会や勤行に気の引き締まる感があります。諸行無常の響きあり。

お盆を迎える心

浄慶寺住職 大塚 展彦

お釈迦様のお弟子には、優れた十大弟子がおられました。その中でも神通力(時空を超え全てを見通す力)第一の目連(もくれん)尊者という方がいました。

ある時、目連は、今は亡き母親の居場所を神通力によって探しました。そうして見えたのは、地獄の餓鬼道で鬼に責め立てられる母親でした。驚いた目連尊者は、お釈迦様に母親を助ける方法を聞きました。お釈迦様は「安居(あんご)の修行が終わる頃(7月中旬または、8月中旬)に、お前の一日の食事を人々と分かち合うがよい。」と教えられました。

餓鬼道というのは、食べ物を分かち合う事なく命終した人が墜ちる地獄だからです。これがお盆(盂蘭盆会)の起源です。かつて目連の母親は、村で飢饉が起きた時に、我が子の命を救う為に、残り僅かな食料を壁に塗り込み隠していました。我が子を思う母親の心がなぜ餓鬼道に墜ちる原因となるのかについては、古来、諸説ありますが、親鸞聖人の教えでは、生前の行いによって死後に行く場所が定まるという事をいいません。

この世の全ての人々が命終わる時に必ず成仏し極楽浄土に往生するという教えです。また、餓鬼道という苦しみ場所は、死後にではなく、現在の心の中にあるという教えです。ですので、目連尊者のお話を親鸞聖人の教えに照らしてみますと、一つ目には、お盆とは、成仏された家族をはじめ有縁の方々を偲ぶ時間であるという事です。二つ目は、故人を偲ぶ中で、私たちの心の有り様を見つめ直す時間であるという事です。三つ目には、目連尊者の物語に母親が登場する意味についてです。食料を隠した事が餓鬼道に墜ちた原因であると伝えようとしているのではなく、我が子が餓鬼道に墜ちることのないようにと願う母親の愛情の深さであるという事です。

私たち一人ひとりについても、成仏された故人を偲び、深い愛情と願いに包まれて生きていることに感謝を捧げる季節と時間がお盆の迎え方なのではないでしょうか。

体験談

本山(東本願寺)に行きました

総代 山田 悠紀子

春の奉仕団としての婦人連盟の今回の東本願寺の参詣はとても楽しい旅になりました。本山の参詣は、二回目になります。一回目は、何もわからない状態のまま終わってしまいましたが、二回目の今回は、京都駅から歩いて東本願寺の前に着いた時は、その大きさや重厚さに感激いたしました。



御影堂

一回目からすると、今回上山するまでの間にご法話を聞かせて頂いたり、お寺に行く機会も多くなり勉強させて頂いたことにより、それが自分の心模様だったと思います。

御影堂での音楽法要”表白”の参加に始まり、全戦没者追弔法会、阿弥陀堂での早朝の晨朝に参加させて頂き、緊張の中に身の引き締まる思いで過しました。

食事の後のご法話は、”私達は、仏様の何に手を合わせているのだろう”が一つの課題でした。世の盲冥を照らす仏様の御光に手を合わせることを学びました。併せて気づけなかったことを気づかせてくれる自分の心の有り様を学ばせて頂きました。

”生まれた意義と生きる喜びを見つけよう、今いのちがあなたを生きている”

講堂に掲げられているこの標語を読んで私は生きているんだ、それならば明るく元気に生きて行こうと勇気づけられました。

私達の担当の谷沢 彩様に、お世話になり新しくなった宿坊でも居心地よく過ごさせて頂きました。渉成園のかゆ膳を美味しく頂きまして、東本願寺をあとにしました。

その後、約一時間でお琴温泉に着きました。お湯が、つるつるでお肌が潤った気分でした。夜の女性だけの宴会は、大変楽しく皆様のお顔が輝いていました。

翌日は、滋賀院門跡、旧竹林院、比叡山延暦寺、三井寺を訪ねました。行ったことのない所ばかりで、歴史のある貴重な宝物を見たようでした。



そして帰途についたのですが、この度は坊守様のとても感じの良い、行き届いたお世話に感謝いたしております。

今回、上山して自分の気持ちを、リセットすることが出来ました。機会を与えてくださった住職様に感謝申し上げます。

◇ご命日の集いへのお誘い

毎月28日13時30分から本堂にて開催しております。

親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒が集い正信偈を、あげております。

また、写経やお経の練習なども行い、お茶を飲みながらの語らいの時も過ごしております。

ご都合の付く方は、ぜひ気軽に参加してみてください。



真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第八回》

七高僧（ひちこうそう）（その一）



七高僧は親鸞聖人が浄土真宗の祖師と定め尊崇されたインド・中国・日本の七人の高僧です。

七高僧のことを、親鸞聖人が詠まれた『正信偈』に照らし合わせてみていきましょう。

七高僧の説明文に添えられている和讃は、親鸞聖人が高僧を讃えて詠まれたものです。

●龍樹菩薩（りゅうじゅぼさつ）

龍樹菩薩は、お釈迦さまが亡くなってからおおよそ500年後に南インドで生まれました。

釈尊は『楞伽經』に、ご自身の滅後、南インドに龍樹菩薩が生まれられ、この上ない大乘の法を説き広められるだろうと予言されました。

その事を、親鸞聖人は正信偈で以下の様に、詠われています。

釈迦如来楞伽山 為衆告命南天竺
 龍樹大士出於世 悉能摧破有無見

（意識）

釈迦如来は楞伽山において、大衆のためにお告げになられた。南インドに、龍樹という菩薩が世に出て、ことごとく、肯定と否定のこだわりを砕き破るであろう。

釈尊出世の本意である弥陀の本願を、釈尊滅後に初めて広めてくださった方こそ龍樹菩薩なのです。

龍樹大士世にいでて 難行易行のみちおしえ
 流転輪廻のわれらをば 弘誓のふねにのせたもう

『高僧和讃龍樹和讃第4首』

●天親菩薩（てんじんぼさつ）

天親菩薩は、北天竺でお生まれになりました。お釈迦さまが亡くなられてから900年後頃でしょう。龍樹菩薩の教えを受けつがれ、『浄土論』をお書きになり、弥陀浄土の往生の道を明確に示してくださったのです。

正信偈では、以下の言葉になっています。

天親菩薩造論説 帰命無碍光如来

（意識）

天親菩薩は、『浄土論』を造ってお説きになられた。私は、無碍光如来に帰依いたします、と。

『浄土論』は、実は『仏説無量寿經』を註釈したものです。

釈迦の教法おおけれど 天親菩薩はねんごろに
 煩惱成就のわれらには 弥陀の弘誓をすすめしむ

『高僧和讃天親和讃第1首』

●曇鸞大師（どんらんだいし）・476年～542年

今から1500年程前、中国の雁門（がんもん）、今の山西省太原（さんせいしやうたいげん）あたりのご出身です。曇鸞大師は、正信偈の中に『天親菩薩論註解』とある様に『浄土論』の注釈をお作りになりました。これが『浄土論註』です。

以下は正信偈で詠われている曇鸞大師です。

本師曇鸞梁天子 常向鸞処菩薩礼
 三蔵流支授浄教 梵焼仙経帰楽邦

（意識）

祖師、曇鸞大師には、梁の皇帝が、常に曇鸞大師に向って菩薩に対するように礼拝していた。菩提流支三蔵から、浄土の教えを授けられたので、曇鸞大師は仙術の経を焼き捨てて、極楽浄土の教えに帰依された。

天親菩薩の『浄土論』こそが、誰もが浄土に往生することができるとする易行道を勧めたものと、曇鸞大師は、讃えておられます。

本師曇鸞和尚は 菩提流支のおしえにて
 仙経ながくやきすてて 浄土にふかく帰せしめき

『高僧和讃曇鸞和讃第1首』

参考：東本願寺・正信偈の教え

つづく



行事予定

- 盂蘭盆会法要 8月13日(火)～15日(木)
3日間とも10時から
- 本堂開放 8月11日(日)～15日(木)
期間中、10時から17時まで
- 秋の彼岸法要 9月23日(祝・月)
13時30分から
- 本堂開放 9月20日(金)～23日(祝・月)
期間中、10時から17時まで

文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

風の道猫に習って町暮し
徒党組む積乱雲に術もなし
釣り上げた金魚と帰る宵祭り
夢ふわり蛍の里に紛れこむ

川柳

山口由利子

坊守のついで

皆様いかがお過ごしですか？浄慶寺境内では、春季彼岸法要・山門瓦おろし式が3月21日に厳修されまして、その後に境内整備事業が本格的に着工されました。

このツイートに書き込みをしているのは5月下旬なのですが、わずか2ヶ月の間に、山門解体、参道撤去、黒煉瓦塀撤去、黒門通り沿いのブロック塀撤去を終え、新しい塀とフェンスの設置、山門・参道基礎工事、山門木工事が始まっています。これまでの事業が安全、迅速に進捗できた事は、中村さんをはじめとする総代の皆様が連日、朝早くから夕方遅くまで現場の管理をいただいたおかげです。有難うございます。

なお、瓦おろし式で皆様と共に手渡しでおろした瓦は、今宿瓦という貴重な瓦だそうです。新たらしく出来る塀に再利用されます。

長く伝えられているものを大切にしながら、新しいものを創造する現場が浄慶寺にあります。



編集後記



いよいよ山門が再建されます。待ち望んだ事が進んで行くことはありがたいものです。また新たな時の移ろいとして刻まれます。じょうけいに自由な題材で寄稿ください。

じょうけい 第9号

《発行》 真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
《編集》 浄慶寺寺報編集担当 塩川大一

お盆にはご先祖さまにお参りしましょう

お盆は、『仏説盂蘭盆経』というお経に説かれている釈尊のお弟子・目連尊者の亡くなった母との物語に由来するものです。

そのことは、さて置いても私たちのいのちは、測り知れない遠い過去からの、いのちが引き継がれて今ここにあるわけです。

そのことを、思い起こすと、ご先祖があつて自分がいまここにある事に感謝の気持ちを懐き、ご先祖に想いをはせる良い時では、ないでしょうか。

是非、次世代の方々もお誘いいただき、お参りください。

お盆の期間の8月11日から15日は、本堂を開放していますので、ご本尊さまにも、ご参詣下さい。

また、13日から15日は、本堂で10時から盂蘭盆会法要を行います。どうぞ、ご参詣下さい。

